



# 脳ドッグ費用の助成制度を 「脳梗塞リスクマーカー検査」導入を

市民経済部長は、県内の状況について「東葛管内の9市の国民健康保険の中で、脳ドッグの費用を助成しているのは、今のところ柏市と流山市の2市と把握している。いずれも特定健診を基本とし、人間ドッグまたは脳ドッグの受診に応じて費用の一部を助成している」と答えました。さらに「国民健康保険を運営する立場としては保険加入者が健康であるために、病気を未然に防ぐということとは基本である」という考え方を示し、「現在、保険加入者の特定健診の受診率は44.9%、市民を対象とした無料のがん検診の受診率は、例えば胃がん検診で20.5%となっている。まずはこの特定健診やがん検診等の受診を促し、受診率を高めていくことが脳血管疾患の予防や

## 柏市・流山市 ですぐに実施

脳血管疾患は、たとえ一命は取りとめても、手足の麻痺、あるいは言語障害、視覚障害、感覚障害など何らかの後遺症が残り、さらに進んで、寝たきりになったり介護が必要になったりする危険性があります。日本共産党は早期に発見する必要がある、早期発見は医療費削減効果が高まると主張し、脳ドッグ費用の助成制度を提案しました。

## 介護・寝たきりの 原因になりやすい！

脳血管疾患（脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、一過性脳虚血発作など）は、がん、心疾患、肺炎とともに日本人の死因の上位を占めています。日本共産党は6月・9月議会で、脳血管疾患を早期に発見するために検査費用を助成し、健診制度を拡充するよう求めました。

早期発見につながる」と答え、現状のままの消極的答弁にとどまりました。

## 「今後の動向を 注視してまいりたい」

簡単な血液検査で脳梗塞のリスクが診断できる「脳梗塞リスクマーカー検査」が近年、注目され始めています。通常の健康診断の血液検査に、追加して検査し、脳梗塞のリスクを診断する「脳梗塞リスクマーカー検査」は、自覚症状のない「隠れ脳梗塞」も発見できるとされ、リスクの高い方には脳ドッグなどの検査も勧められます。

半身まひや手足のしびれなどの症状を伴わない「隠れ脳梗塞」の方は、脳卒中、認知症になりやすいといわれ、約10倍も脳卒中を起こす頻度が高くなるという調査データもあります。

日本共産党は「脳梗塞リスクマーカー検査」を特定健診の検査項目に追加して、浦安市が費用を助成して導入できないのかと質問しました。健康福祉部長は「検査自体が臨床応用されたばかりであることであること」「保険適用の検査でないこと」「脳梗塞を診断するものではなく、そのリスクに関する情報提供するものである」ことなどを挙げて「特定健診の検査項目に」追加する考えは現在のところありません」と答え、「市として今後の動向を注視してまいりたい」と答えました。

週刊

市議会報告

日本共産党

2016年10月3日

第1387号

【発行】

日本共産党  
浦安市議会  
& F A X  
350-1243



市議会議員  
元木美奈子

入船 4-37-14  
☎355-8526  
minamonton@  
jcom.home.ne.jp



市議会議員  
美勢麻里

北栄 2-3-16-203  
☎354-9269  
m5mise@jcom.  
home.ne.jp